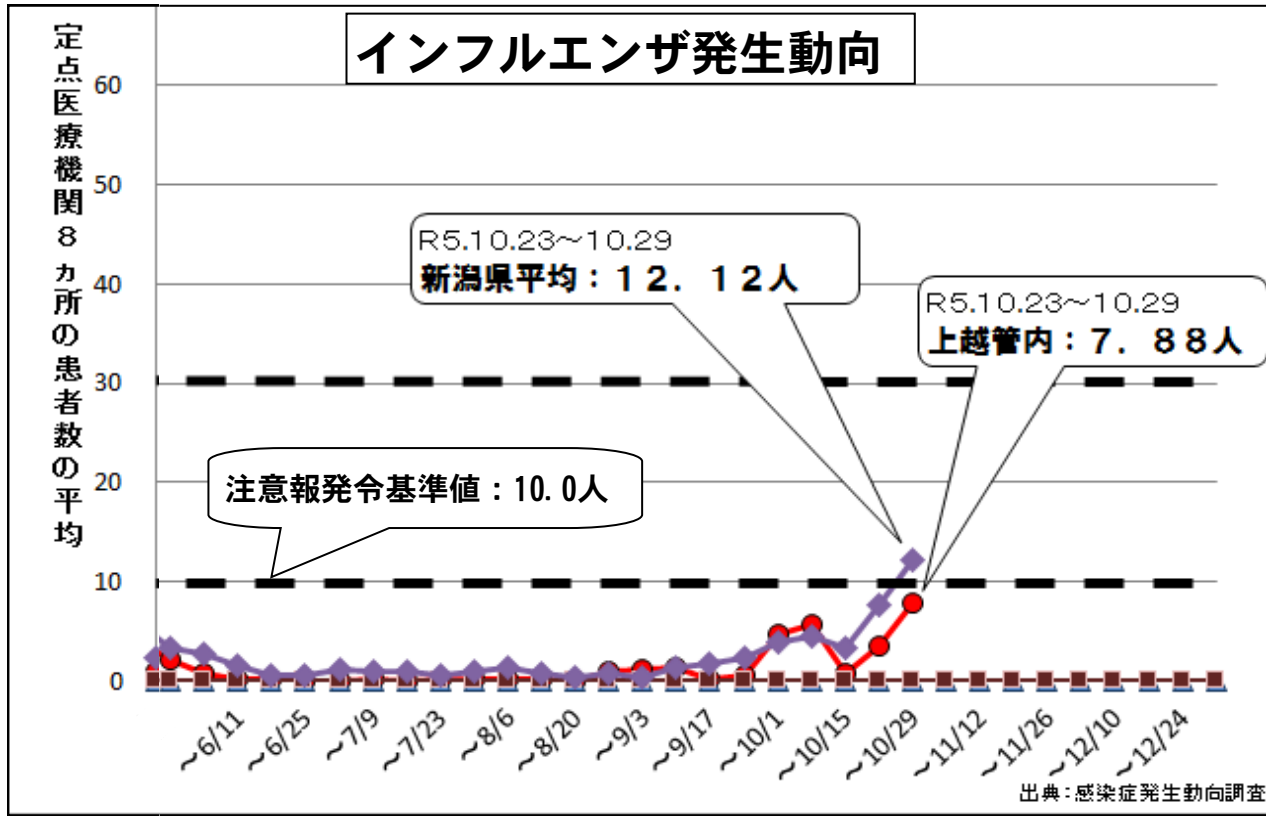


# インフルエンザ感染増加 県平均で注意報基準値を突破



下の枠内のように、新型コロナの感染者はこのところ徐々に減少しています。

しかし、インフルエンザの感染が増加してきており、定点当たりの報告数が全県で12.12人と注意報発令基準値を超えました。上越管内では7.88と増加しています。

予防接種は、感染そのものを完全に防ぐことはできませんが、重症化や合併症の発生を予防する効果があるとのこと。そ

こで、65歳以上の人と、60~64歳で心臓、腎臓、呼吸器の機能障害やヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害があり、かつ身体障害者手帳1級に相当する人には、市の助成制度がありますので、1,650円の負担のみで接種ができます。

なお、日本共産党議員団は、この予防接種の助成制度について、すべての人を対象にすることを求めています。

**日本共産党上越市議員団ニュース**  
No.811 2023年11月12日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)  
絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)  
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))

**県平均の2倍超える高水準**

上越保健所管内  
新型コロナ感染症  
感染者定点報告数

10月16日~10月22日	6.88 (県3.70)
10月23日~10月29日	5.63 (県2.69)

# 大雪などとの複合災害は想定せず

## 国・新潟県による“原子力防災訓練”

雪が降ったらどうする……

東京電力柏崎刈羽原発での重大事故の発生を想定した原子力防災訓練が、18年ぶりに国と新潟県が一体となって10月27~29日の3日間にわたって行われました。

29日には、原発から5~30km圏内(UPZ圏内)の避難準備区域の住民の避難訓練が行われましたので、上越市の柿崎区、吉川区、大島区などの市民も参加しました。

それぞれの避難者は、バスや自家用車で避難する途中でスクリーニングポイントに立ち寄り、車や自らの体に放射性物質が付着していないかなどの検査を受け、除去する訓練を行ってから、指定された避難先まで向かいました。

頸城区の希望館や三和区の保健センターなどの避難先では、柏崎市内からの避難者の

受け入れもありました。柏崎市からの避難者も同様にスクリーニングや放射性物質除去の訓練などを行いました。

重大な問題の一つは、豪雪などとの複合災害が発生した場合の避難体制です。

今回の訓練では、大雪と原発事故が同時に発生したケースを想定した訓練が行われたとのことですが、これはあくまでも机上での訓練だけで、内容も、「地震、原発事故、豪雪の三つが重なった場合にどのような対応が必要か検討した(内閣府森下審議官)だけのこと。市民が参加した避難訓練では、大雪は想定されなかったとのこと。す。

昨年末には、柏崎市で幹線道路が長時間にわたり通行止めになるなど、避難どころではない事態が生じました。そ

のため、参加した市民からも多くの不安の声が出されたとのこと。す。

花角知事は、「実際、整備されていけば、少しずつ県民のみなさんの不安というものも少なくなっていくんだろうと思うなどと無責任な発言をしています。問題は不安の低減といった抽象的なことではなく、実効性のある避難体制が確実にできるかという点で



NSTテレビの画面よりー希望館の様子

**お詫びと訂正** 前号(11/5付No.810)の食物アレルギー事故の記事中、一部地域向けの紙面で「児童が給食を半分ほど食べた後」となっておりましたが、正しくは「児童が給食を3分の1ほど食べた後」です。お詫びし、訂正いたします。